様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３２６４４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０１５０９

研究課題名（和文）脱国家的人種集団と国際連盟における自決権の議論

研究課題名（英文）Transnational racial groups and the right to self-determination in the League of Nations.

研究代表者
荒木　圭子（Araki, Keiko）

東海大学・国際学部・教授

研究者番号：００５１２６３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究期間全体においては、著書2件（単著１、共著１）、査読つき単著論文３件（英語２、日本語１）、口頭発表３件の成果があった。全体を通して、黒人たちの国境を超えた自決権獲得のための運動と、その際に重要となるパン・アフリカニズムに関する研究を深化できたことが大きな成果である。
　新型コロナウイルスの流行により、現地調査にいけない時期が長引いたため、国際連盟における動きに関しては、十分に研究を進めることができなかった。その一方で、研究期間２年目のはじめにブラック・ライヴズ・マター運動が大きく展開したことにより、パン・アフリカニズムの現代的意義を検討する成果につながった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
脱国家的な人種集団が自決権の主体になりうるのかという「非常識」な問いが、社会進化論やそれに裏打ちされた植民地主義が蔓延っていた20世紀初頭においては、ある程度の正当性をもって扱われていたことを明らかにできた点が学術的な意義である。また、21世紀に入りアフリカン・ディアスポラのアフリカ開発への参加が新たなパン・アフリカニズムとして模索されている中で、それを検討するための歴史的事象を明らかにできた点は社会的な意義と考えられる。

研究成果の概要（英文）：　During the entire period of this research, I have published 2 books (1 single-authored and 1 co-authored), 3 peer-reviewed single-authored papers (2 in English and 1 in Japanese), and 3 oral presentations. Overall, the major achievement of this project was to deepen the research on the movement for the right to self-determination of Black people beyond national borders and their Pan-Africanism activities.
　Difficulties in field research abroad due to the new coronavirus pandemic have hampered research on the the League of Nations. On the other hand, the significant development of the Black Lives Matter movement at the beginning of the second year of the research period led to results that examine the contemporary significance of Pan-Africanism.

研究分野：アフリカン・ディアスポラ研究

キーワード：パン・アフリカニズム　黒人史　アフリカン・ディアスポラ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景
（１）国際社会を理解するにあたっては、伝統的なアクターである国家を中心とする分析が主流であったが、国家の枠組みを超えたグローバルなアプローチも必要不可欠となっている。近年では、脱国家的アクターの重要性も認識されるようになり、多くの研究が発表されている。しかし、その分析対象はNGO・NPOや武装集団による活動にほぼ限定されている。

（２）これまで自決権をめぐる議論においては、民族集団が念頭に置かれてきた。20世紀以降、自決権の原理が民族主義原理とともに語られてきたことを鑑みると、当然ともいえる。しかし実際には民族以外の集団も自決権の主体として名乗り上げ、その獲得を目指して運動を進めてきた。このような民族以外の集団とくに国境を超えた人種集団に関しては、これまで十分に研究されてこなかった。

２．研究の目的
　本研究では、脱国家的な人種マイノリティ集団が「自決権」の主体となり得るのか、という根本的な問いをもとに、「自決権」や「マイノリティ」といった概念があいまいであった時代に、このような人種集団が国際政治に中でどのように位置付けられていたのか、さらに、これらの概念規定が明確化されていく過程での国際社会との相互作用について明らかにするものである。

３．研究の方法
　第一次世界大戦後、アメリカを拠点に展開されたマーカス・ガーヴィー（Marcus Garvey）の脱国家的黒人運動をとりあげ、同運動の動態および運動を取り巻く国際環境を歴史的資料から明らかにする。資料としては、The Marcus Garvey and Universal Negro Improvement Association Papers、W. E. B. DuBois Papers、Robert A. Hill Collection、アメリカ公文書館および国際連盟の公文書を主に用いる。

４．研究成果
（１）第一次世界大戦中、ウィルソン大統領によって打ち出された自決権の原則は、新世界の黒人たちに大きな希望をもたらした。戦後の新たな国際秩序が模索されるなか、アフリカの独立と自らの地位向上を結びつけた彼らは、パン・アフリカニズムと呼ばれる思想・運動を発展させ、連帯してそれまでの人種主義的な国際秩序の是正を求めた。大戦にはアメリカ合衆国のほか各植民地からも黒人たちが従軍していたことから、連合国の勝利に貢献した見返りとして、黒人たちは旧ドイツ領アフリカへの自決権の適用を訴えた。

（２）1919年のパリ講和会議の開催に合わせ、アメリカの黒人知識人W. E. B. デュボイスは、黒人たちの主張を国際社会の指導者たちに伝えるべく、パン・アフリカ会議（Pan-African Congress）を開催した。旧ドイツ領の処遇が主要な関心事であったものの、即時の自決権付与は求めず、同地域に関する黒人たちの要望をまとめる機会として同会議を位置付けた。デュボイスはアフリカへの自決権付与に関しては、アフリカ人たちがいまだ「半文明化の状態にある」ことから完全に適用することはできないという立場をとり、部分的・段階的な付与を求めた。

（３）デュボイスのパン・アフリカ会議がエリート黒人を対象としていた一方、ジャマイカ出身のマーカス・ガーヴィーは、黒人大衆を巻き込むパン・アフリカニズム運動を展開した。この運動では旧ドイツ領アフリカの即時独立を求めるとともに、中南米などの黒人が多数を占める植民地にも自決権を付与することが求められた。ガーヴィーもデュボイスと同様に、当時流布していたヨーロッパ文明を優位に置く価値観を身につけており、「欧米化」すなわち「文明化」した黒人がアフリカ人を牽引することで、アフリカに欧米諸国に比肩しうる黒人国家を実現させる計画を進めた。

（４）ガーヴィーは国際社会で黒人が名誉ある地位を獲得するためには、全黒人を代表する「強い国家」が必要だと確信していた。運動組織である万国黒人地位向上協会（UNIA）をあらゆる黒人を庇護する擬似的な政府組織と位置付け、「国歌」や「国旗」を制定したほか、自らアフリカ共和国暫定大統領を名乗った。これは国境を超えた黒人たちが自決権の主体になりうることを強烈にアピールするものであった。また、「強い国家」は政治的に独立しているだけではなく、経済的にも欧米諸国に依存することなく自立していなければならないという認識の下、黒人汽船会社ブラック・スター・ライン（Black Star Line）を設立した。

（５）1922年、UNIAは「黒人」を「人民」と表現して自決権の主体であることを示しながら、国際連盟に対し総会の場で黒人の要望を発表することを求めた。当初、事務局側は代表団との面会も検討したが、アメリカ合衆国との関係悪化を懸念する声もあり、最終的に事務的な対応のみにとどまった。

同年 7 月、連盟理事会で旧ドイツ領のトーゴランドとカメルーンが英仏の委任統治領となることが最終決定されると、UNIA はこの決定に反対する嘆願書を作成した。ここでは、国境を超えた黒人たちを一つの集団とした上で、「民族」あるいは「人民」と同格に位置付け、独立国家の主体すなわち自決権の担い手となるべきことが繰り返し訴えられた。その上で、旧ドイツ領アフリカの黒人への引き渡しが求められた。

8 月にジュネーヴを訪れた UNIA 代表に対しては、ハイチ代表ルイ・ダンテ・ベルガルド（Louis Dantès Bellegarde）が常設委任統治委員会局長を紹介したほか、ペルシア代表ミールザー・リザー・ハーン（Mirza Riza Khan）が UNIA からの依頼を受けて総会で UNIA 嘆願書を配布するよう事務局に要求し実現させるなど、協力的姿勢を見せた。黒人を自決権の主体として打ち出すガーヴィー運動に対しては、「真正な問題」を掲げているという指摘もされたものの、その要求は認められなかった。

（6）人種平等という目標に向けて、国境を超えた人種集団としての「黒人」を自決権の担い手とするガーヴィーの運動は、近年の国際社会の中で見られる超国家的な機関や措置の先駆けとしても捉えられるようになってきた。しかしながら、古典的リベラリズムの代表ともいえる国際連盟の創成期において、ガーヴィー運動による脱国家的運動は、むしろそれ以前の国家中心的なリアリズムに基盤を置いていた。

第一次世界大戦後の新たな国際秩序のなかで黒人たちが正当な地位を得るためにガーヴィーが重要視したのは、後ろ盾となる「強い国家」の建設であり、そのためには実体的な土地を必要とした。この実体的な土地として、UNIA のアフリカ帰還運動の受け入れ先とされた独立国家リベリアは、当時の国際環境の中で脆弱な立場であったことから、ガーヴィー運動を拒絶するに至る。ガーヴィー運動は失敗したが、ここで提起されたパン・アフリカニズム的連帯運動は、21 世紀におけるアフリカ開発の実践において、ディアスポラによる送金や「帰還」に関する議論の中に受け継がれている。

引用・参考文献

① 荒木　圭子『マーカス・ガーヴィーと「想像の帝国」-国際的人種秩序への挑戦』千倉書房、2021
② 荒木　圭子「パン・アフリカニズムとアフリカ−解放の思想と運動」『アフリカ諸地域　〜20 世紀』、岩波書店、2022
③ Keiko Araki, “Transnational Nationalism: Revisiting the Garvey Movement,” *The Japanese Journal of American Studies*, Vol. 32, 2021

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 荒木圭子	４．巻 第40号
２．論文標題 Pan-Africanism in the 21st century: The End of a Single Narrative and the Potential of the Black Lives Matter Movement	５．発行年 2022年
３．雑誌名 上智アジア学	６．最初と最後の頁 71-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 荒木圭子	４．巻 32
２．論文標題 Transnational Nationalism: Revisiting the Garvey Movement	５．発行年 2021年
３．雑誌名 The Japanese Journal of American Studies	６．最初と最後の頁 71-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 荒木圭子	４．巻 43
２．論文標題 黒人と自決権――ガーヴィー運動による国際社会へのアピールから――	５．発行年 2020年
３．雑誌名 アメリカ史研究	６．最初と最後の頁 93--108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 荒木圭子
２．発表標題 黒人自由闘争におけるパン・アフリカニズム
３．学会等名 日本アメリカ史学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 荒木圭子
２．発表標題 21世紀のパン・アフリカニズム
３．学会等名 同志社大学都市共生研究センター公開講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 荒木圭子
２．発表標題 アフリカン・ディアスポラと自決権
３．学会等名 日本国際政治学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 永原陽子、松田素二、寺嶋秀明、坂井信三、鈴木英明、網中昭世、武内進一、米田信子、苅谷康太、杉山祐子、正木響、荒木圭子、中尾世治、佐藤千鶴子、石川博樹、眞城百華、溝辺泰雄	４．発行年 2022年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 316
３．書名 アフリカ諸地域 ～20世紀	

１．著者名 荒木 圭子	４．発行年 2021年
２．出版社 千倉書房	５．総ページ数 240
３．書名 マーカス・ガーヴィーと「想像の帝国」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関